

家庭礼拝ガイド 365 日－8月

日付	聖書箇所	中心聖句	テーマ
8/1	マルコ 1:1～8	マルコ 1:7	バプテスマのヨハネ
8/2	マタイ 3:13～17	マタイ 3:16, 17	イエス様の受洗
8/3	マタイ 4 章	マタイ 4:4	荒野の誘惑
8/4	ヨハネ 1:40～42	ヨハネ 1:42	アンデレのように
8/5	ヨハネ 2:1～11	ヨハネ 2:11	カナの結婚式
8/6	ヨハネ 3:1～15	ヨハネ 3:5	新しく生まれる
8/7	ヨハネ 3:16	ヨハネ 3:16	ひとり子をお与えになったほどに
8/8	ヨハネ 4:14	ヨハネ 4:14	いのちへの水
8/9	ルカ 5:1～11	ルカ 5:11	イエスさまに従う
8/10	マルコ 2:1～12	マルコ 2:5	中風の人のいやし
8/11	ヨハネ 5:1～14	ヨハネ 5:6	ベテスダの池で
8/12	マタイ 5:3	マタイ 5:3	心の貧しい者は幸いです
8/13	マタイ 5:4	マタイ 5:4	悲しむ者は幸いです
8/14	マタイ 5:5	マタイ 5:5	柔和な者は幸いです
8/15	マタイ 5:6	マタイ 5:6	義に飢え渴いている者は幸いです
8/16	マタイ 5:7	マタイ 5:7	あわれみ深い者は幸いです
8/17	マタイ 5:8	マタイ 5:8	心のきよい者は幸いです
8/18	マタイ 5:9	マタイ 5:9	平和をつくる者は幸いです
8/19	マタイ 5:10～12	マタイ 5:10	義のために迫害されている者は幸いです
8/20	マタイ 5:13～16	マタイ 5:16	地の塩、世の光
8/21	マタイ 6:9	マタイ 6:9	御名があがめられますように
8/22	マタイ 6:10	マタイ 6:10	御国が来ますように
8/23	マタイ 6:11	マタイ 6:11	日ごとの糧をお与えください
8/24	マタイ 6:12	マタイ 6:12	負いめをお赦しください
8/25	マタイ 6:13	マタイ 6:13	試みに会わせないでください
8/26	マタイ 6:33	マタイ 6:33	空の鳥、野の花を見なさい
8/27	マタイ 7:1～5	マタイ 7:5	目から梁を取りのけなさい
8/28	マタイ 7:7～11	マタイ 7:11	天の父は良いものをくださる
8/29	マタイ 7:13	マタイ 7:13	狭い門から入りなさい
8/30	マタイ 7:24～27	マタイ 7:24	岩の上の家
8/31	マタイ 8:5～13	マタイ 8:13	百人隊長の信仰

8月1日

テーマ：バプテスマのヨハネ

せいしょかしよ ふくいんしよ しょう せつ せつ
聖書箇所：マルコの福音書 1章1節～8節

◆今日のひとこと

かれ の つた い
彼は宣べ伝えて言った。「私よりもさらに ちから かた
力のある方が、あとからおいでになります。
す。私には、かがんでその方のかた と ね
くのひもを解く値うちありません。

マルコの福音書 1章7節

◆メッセージ

かみ こ まえ じゅんぴ ひと く きゅうやく
神さまは、イエスさまが来られる前に、まず、その準備をする人が来ることを、旧約
せいしょ おし
聖書で教えてくださっていました。それが、バプテスマのヨハネさんです。



このヨハネさんは、とっても変わった人でした。あらの す
荒野に住んでいました。そして、6節のヨハネさんの すがた み
姿を見ると、とても元気です。「らくだの毛で織った物を着て、腰に皮の帯を締め、いなごと
け お もの き
野蜜を食べていた」と書いてあります。あらの
荒野にいても、守られていました。ヨハネさんは、あらの さけ
荒野で叫んでいました。「悔い 改めなさい」と。そして、ヨルダン川でバプテスマ（ひた
がわ ひた
浸すこと）を授けていました。だから、バプテスマのヨハネさんと呼ばれていたのです。

く あらた
「悔い改める」とは、「方向を変える」ということです。ヨハネ
さんは、「あなたがたが今まで生きてきた道から方向を変えましょう。『自分の思い通りに
かみ い
したい、神さまなんかいない』と言って、神さまに背を向けて歩んでいないで、自分の
みち かみ ほうこう む か い
道を、神さまの方向に向きを変えて生きていきなさい。そして、向きを変えたことをあら
わすために、バプテスマを受けなさい」と言いました。

これが、イエスさまの道を整えることでした。

たくさんの人々が、ヨハネさんのもとに集まってき
ました。まるで、ヨハネさんが心（こころ）をきれいにしてくれる
ように思われてしまいました。でも、ヨハネさんはこう
い ちから すく ぬし こ
言いました。「力ある救い主が、来られます。私は、そ
かた どれい ちい もの
の方の奴隷にもなれない小さな者です。」と、イエスさま
のしょうかい
ことを紹介しました。ヨハネさんは、悔い改めははっきりと語りました。でも偉そう
にはしないで、とっても謙遜な人です。私たちも、このバプテスマのヨハネさんのように、
けんそん す ば しょうかい ひと つた ひと
謙遜でイエスさまの素晴らしさを紹介する人に、伝える人になりましょう。



◆お祈り

「バプテスマのヨハネさんのようにイエスさまの素晴らしさをしょうかい つた ひと
紹介し、伝える人になれま
すように守り 導いてください。」（町田キリスト教会牧師 鈴木聖仕）

8月2日

テーマ：イエスさまの受洗^{じゅせん}

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしよ} 3章^{しょう} 13節^{せつ}～17節^{せつ}

◆今日のみことば

こうして、イエスはバプテスマを^う受けて、すぐに水^{みず}から^{あが}上がった。すると、天^{てん}が開^{ひら}け、神^{かみ}の御霊^{みたま}が鳩^{はと}のように^{くだ}下って、自分^{じぶん}の上^{うへ}に来^こられるのをご覧^{らん}になった。また、天^{てん}からこう告^つげる声^{こえ}が聞^きこえた。『これは、わたしの愛^{あい}する子^こ、わたしはこれ^こを喜^{よろこ}ぶ。』
マタイの福音書^{ふくいんしよ} 3章^{しょう} 16、17節^{せつ}

◆メッセージ

教会^{きょうかい}の出来事^{できごと}で一番^{いちばん}うれしいことは、洗礼式^{せんれいしき}（バプテスマ）です。洗礼式^{せんれいしき}とは、水^{みず}に浸^つかって、新^{あた}しく生^いきることを表^{あらわ}しています。「イエスさまを信^{しん}じて歩^{あゆ}んで行^いきます」と言うことを神^{かみ}さまに對^{たい}して約^{やく}束^{そく}して、教会^{きょうかい}のみんなに對^{たい}して明^{あき}らかにすることです。



聖書^{せいしょ}には、イエスさまがバプテスマのヨハネさんから洗礼^{せんれい}を受けたことが記^{しる}されています。なぜ、神^{かみ}のみ子^こであり、罪^{つみ}のないイエスさまが、悔^くい改^{あらた}め（罪^{つみ}から離^{はな}れて、神^{かみ}さまを向^むいて生^いきること）のバプテスマを^う受けたのでしょうか。

それは、私^{わたし}たちに模範^{もはん}を示^{しめ}すためでした。「イエスさまを信^{しん}じていることは隠^{かく}しておきたい、誰^{だれ}にも内緒^{ないしょ}で、自分^{じぶん}の心^{こころ}の中^{なか}だけで信^{しん}じていればいい」と、自分^{じぶん}で勝手^{かつて}に決^きめてしまわないうように。そして、イエスさまに従^{したが}っ

て、洗礼^{せんれい}を受け、同じく洗礼^{せんれい}を受けた教会^{きょうかい}の人々^{ひとびと}と一緒^{いっしょ}に生^いきていくように。だから、洗礼式^{しき}は、教会^{きょうかい}の一番^{いちばん}の喜^{よろこ}びです。

しかし、イエスさまが洗礼^{せんれい}を受けられた後^{あと}の様^{よう}子は、私^{わたし}たちが洗礼^{せんれい}を受ける場合^{ばあい}とは大^{おお}きく違^{ちが}っていました。それは、天^{てん}の父^{ちち}なる神^{かみ}さまから、「これは、わたしの愛^{あい}する子^こ、わたしはこれ^こを喜^{よろこ}ぶ」という声^{こえ}があつたことでした。神^{かみ}さまがはっきりと、イエスさまが神^{かみ}のひとり子^こであることを教^{おし}えてくださいました。イエスさまは完全^{かんぜん}に私^{わたし}たちと同じ人間^{にんげん}でありながら、同時^{どうじ}に完全^{かんぜん}に神^{かみ}のひとり子^こです。そして、イエスさまのことを愛^{あい}している、と。神^{かみ}さまは、その愛^{あい}しているイエスさまを十字架^{じゅうじか}の上^{うへ}で私^{わたし}たちの罪^{つみ}の身代^{みが}わりにするほど、私^{わたし}たちを愛^{あい}してくださっています。

こんなに愛^{あい}してくださっている神^{かみ}さまを仰^{あお}いで生^いきていきたいですね。イエスさまを信^{しん}じて生^いきていくことを決^{けつ}心^{しん}して、洗礼^{せんれい}を受けましよう。

◆お祈り

「神^{かみ}でありながらも、私^{わたし}たちと同じ人間^{にんげん}となつてくださったイエスさまにならって、洗礼^{せんれい}を受けることができますように。」（安城中央キリスト教会牧師 吉兼剛）

8月3日

テーマ：^{あらの ゆうわく}荒野の誘惑

聖書箇所：^{ふくいんしょ}マタイの福音書 ^{しょう}4章 ^{せつ}1節～^{せつ}11節

◆今日のみことば

イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。」マタイの福音書 4章 4節

◆メッセージ

友だちから、悪いことに誘われたり、神さまに喜ばれないことをするように言われたら、どうしますか。ちょっとやってみたいようなことだったら、どうでしょうか？

イエスさまは荒野に行き、悪魔からの誘いのことばを3回も聞きました。イエスさまは悪魔にどのように答えたのでしょうか。1番目の誘いは、荒野で40日間、何もたべないで過ごしていた時のこと。とてもお腹がすいていますね。悪魔が来て言いました。「あなたが神の子なら、石をパンに変えなさい。」もちろん、イエスさまならおできになります。全能のお方ですから。でも、イエスさまは悪魔の言いなりにはなりませんでした。聖書のことばから答えたのです。目の前の満足を与えてくれる



パンだけに目を留めるのではなく、神さまのことばに従う、と。2番目の誘いは、「御使いたちが守るかどうか、神殿のてっぺんから身を投げてみなさい。」でした。イエスさまは「あなたの神である主を試してはいけない。」と聖書のことばによって答えました。3番目の誘いは、「サタンを拝むなら世界のすべてのものを与えよう。」世界のすべてを自分のものにす

ることができることができたならすごいですね。じゃあ、悪魔を拝みますか？イエスさまは「あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。」と聖書のことばによって答えました。そして、悪魔は、みことばを握っているイエスさまから離れて行きました。

イエスさまは、私たちと同じ人となられて、悪魔の誘いにあいましたが、神さまのことばである聖書によって打ち勝ちました。みことばを知っていると神さまの心がわかります。みことばによって、心をまよわせるような悪い誘いから守られます。みことばに聞き、みことばを心に蓄えていきましょう。



◆お祈り

「神さまのことばに学び、いつでも神さまのことばに、したがうことができますように。」

(今村キリスト教会牧師 近藤幸子)

8月4日

テーマ：アンデレのように

聖書箇所：ヨハネの福音書^{ふくいんしょ} 1章40節～42節^{しょう せつ}

◆今日のみことば

かれ
彼はシモンをイエスのもとに連れてきた。

ヨハネの福音書^{しょう} 1章42節^{せつ}

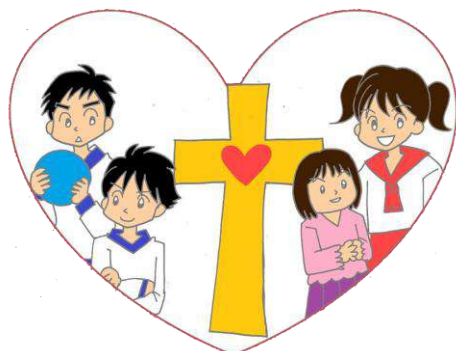
◆メッセージ

アンデレさんはイエスさまに会いました。そして、イエスさまが救い主（メシア）と知りました。救い主イエスさまに会うことができうれしかったアンデレさんは、どうしたのでしょうか。

アンデレさんはイエスさまに会えてうれしかったことをシモンさんにお話しして、シモンさんをイエスさまのところに連れて行ったのです。嬉しいことは、大切な人たちと一緒に経験したいですね。アンデレさんの紹介で、シモンさんも、救い主イエスさまに会うことができました。イエスさまのところにきたシモンさんに、イエスさまは「ペテロと呼ぶことにします。」と言いました。そして、アンデレさんも、ペテロ（シモン）さんもイエスさまの12弟子になりました。



イエスさまに会うことができ、とてもうれしかったアンデレさんは、大切なシモンさんにイエスさまを紹介しました。私たちも、イエスさまに愛されていることを知ってうれしかったことを、家族やおともだちにお話しすることはとても大切なことです。また、教会にさそって、一緒にイエスさまのお話をききましょう。救い主であるイエスさまの大きな愛をたくさん知って、イエスさまにしたがっていきましょう。イエスさまは私たちのことをとても愛しています。そして私たちの救い主です。



私たちもアンデレさんのように、救い主であるイエスさまを大切な家族や兄弟、おともだちに紹介していきましょう。

◆お祈り

「アンデレさんのように、たいせつな人にイエスさまを紹介できるように助けてください。」
(町田南キリスト教会伝道師 鈴木美絵)

8月5日

テーマ：カナの結婚式^{けっこんしき}

聖書箇所：ヨハネの福音書^{ふくいんしょ} 2章1節^{しょう}～11節^{せつ}

◆今日のみことば

イエスはこのことを最初の^{さいしよ}のしるしとしてガリラヤのカナで行い、ご自分の栄光^{えいこう}をあらわ^{あらわ}された。それで、弟子^{しん}たちはイエスを信じた。ヨハネの福音書^{ふくいんしょ} 2章11節^{しょう せつ}

◆メッセージ

結婚式^{けっこんしき}に出たことがありますか？花婿^{はなむこ}さんも、花嫁^{はなよめ}さんも、家族^{かぞく}も、嬉しい^{うれ}いっぱい、結婚式^{けっこんしき}に出たみんな喜^{よろこ}びいっぱいですね。イエスさまも、ある結婚式^{けっこんしき}に招待^{しょうたい}されました。



お祝いの披露宴^{ひろうえん}の途中^{とちゅう}で、困^{こま}ったことが起きました。ぶどう酒^{しゅ}がなくなってしまったのです。まだまだお祝いが続いていますから、ぶどう酒^{しゅ}が必要です。困^{こま}ったマリヤさんは、イエスさまにぶどう酒^{しゅ}がなくなったことを伝えました。イエスさまが何とかしてくれると思った^{おも}からです。マリヤさんは、係^{かかり}の人^{ひと}たちに言いました。「イエスさまの言^いうとおりにしてください。」ここが大切なポイントです。



イエスさまは、「水^{みず}がめに水^{みず}をいっぱい入れなさい。」と言われました。「ぶどう酒^{しゅ}がほしいのに、水^{みず}？」と思うでしょ。でも、係^{かかり}の人^{ひと}たちは言われたとおりにしました。大きな水^{みず}がめに水^{みず}を運^くんで来るのは、大変^{たいへん}なことでした。水^{みず}がめには、約100ℓの水^{みず}が入ります。500mlサイズのペットボトルだったら約200本。でも、係^{かかり}の人^{ひと}たちは、言われたとお

り、水^{みず}がめ6個分^{こぶん}、水^{みず}でいっぱいになりました。続けて、イエスさまは言われました。「それを、世話役^{せわやく}のところに持^もっていきなさい。」と。「ぶどう酒^{しゅ}がほしいのに、水^{みず}なんか持^もって行^いって、世話役^{せわやく}に怒^{おこ}られたらどうしよう。」と思いますね。でも、係^{かかり}の人^{ひと}たちは言われたとおりにしました。世話役^{せわやく}が飲^のんでみると、なんと、水^{みず}がぶどう酒^{しゅ}になっていたのです。しかも、おいしいぶどう酒^{しゅ}！係^{かかり}の人^{ひと}たちは、世話役^{せわやく}からほめられました。イエスさまに言われたとおりにしただけで、こんなすばらしい体験^{たいけん}をすることができました。結婚式^{けっこんしき}がもっともっと喜^{よろこ}びいっぱいになりました。



イエスさまは、「困^{こま}りました。」と、相談^{そうだん}できる救^{すく}い主^{ぬし}です。その時大切^{ときたいせつ}なのは、イエスさまの言^いうことに従^{したが}うこと。イエスさまを信^{しん}頼^{らい}して従^{したが}うこと。イエスさまは、従^{したが}う人々^{ひとびと}に喜^{よろこ}びを与^{あた}えてくださいます。

◆お祈り

「イエスさまは喜^{よろこ}びを与^{あた}えてくださることを感謝^{かんしや}します。イエスさまの言^いうとおりにした^いがうことができますように。」
(習志野台キリスト教会牧師 丸山園子)

8月6日

テーマ：新しく生まれる

聖書箇所：ヨハネの福音書 3章1節～15節

◆今日のみことば

イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によ
って生まれなければ、神の国に入ることができません。ヨハネの福音書 3章5節

◆メッセージ

ニコデモさんはユダヤ人のリーダーで、困ったことがあればニコデモさんを頼れば大丈夫とみなから思われている人でした。そんなニコデモさんにも分からないことがありました。ですから、イエスさまのことを聞いた時に、この人ならば私が分からない事にも答えてくださると考えたのです。



そこでニコデモさんは、人に見られないように夜にイエスさまを訪ねました。周りの人にどう思われるか心配だったようです。でも、イエスさまのもとに行くことが大切ですね。イエスさまのもとに答えがありますから。そのニコデモさんに、イエスさまは「人は、新しく生まれなければ神の国を見ることは出来ません。」と言いました。ニコデモさんが聞きたいと思っていたことでした。頑張って神さまの教えを守っていましたが、本当に神の国に入ることができるのか、不安だったからです。でも、ニコデモさんにはイエスさまの言



っていることが分かりませんでした。「新しく生まれるって、もう一回お母さんのおなかの中に戻ること？それは、無理でしょう」。イエスさまは教えてくださいました。「上から注がれる聖霊によって新しく生まれることができます。」と。そして、出エジプトの出来事から「青銅の蛇」の話をしられました。イスラエルの人々が荒野の旅の途中で、神さ

まへの不満を口にした時、多くの人々がへびに咬まれて死にました。神さまが「青銅の蛇」を備えてくださいました。罪を悔い改めて「青銅の蛇」を見上げると、生きることができるように。この「青銅の蛇」は十字架のイエスさまを示すものです。私の罪のために十字架に架けられたイエスさまを見上げる時に、私たちの罪は赦されます。そして、神さまが送ってくださる聖霊さまが、イエスさまの命に結ばれて生きることができるようにしてください。だから、新しい命の誕生、新しい生活のスタートです。聖霊なる神さまに導かれて、みこころに従って歩み続けましょう。

◆お祈り

「神さまの備えてくださっている救いを感謝します。聖霊なる神さまによって、イエスさまのいのちに結ばれて歩むことができますように。」

(レインボーチャペル牧師 海老名浩)

8月7日

テーマ：ひとり子をお与えになったほどに

聖書箇所：ヨハネの福音書 3章16節

◆今日のみことば

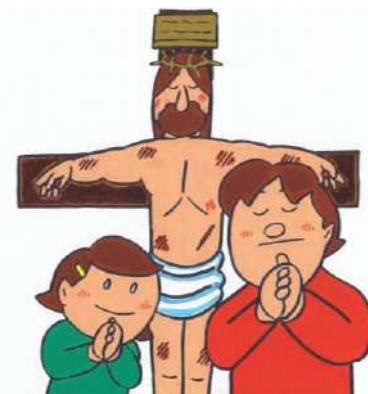
神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

ヨハネの福音書 3章 16節

◆メッセージ

私たち人間は創造主である神さまと正しい関係を持つように造られました。しかし最初の人間であるアダムさんは神さまとの約束を破って神さまのおことばに逆らいました。その結果、一番大切な神さまとの関係が壊れてしまっただけでなく、罪と死がこの世界に入ってきました。人が悪いことをしたり憎み合ったりするのはそのためです。このままでは人間は永遠の滅びに行くしかありません。神さまにとってこんな悲しいことはありません。

しかし神さまはそんな私たちを愛し、罪をおかした私たちを決して見捨てないでご自分の方から救いの手を差し伸べてくださいました。神さまはそのために愛するひとり子のイエスさまを人間の世界に遣わしてくださいました。イエスさまは私たちが神さまとの関係を回復するためにご自分から私たちの身代わりに罪の罰を受けて十字架にかかって死んでくださいました。イエスさまの身代わりの死によって罪の結果である死が滅ぼされました。その証拠にイエスさまは死んで三日目に復活されました。これによってイエスさまはご自分が神から来られたひとり子の神であり唯一の救い主であることを示されました。このイエスさまを救い主と信じる人は神さまとの関係が回復して死んだ後も永遠に神さまと交わりを持つことができます。神さまといつもいっしょにいられるなんて、



こんなうれしいことはありませんね。もし、いまあなたが神さまに逆らっているなら、それをやめてイエスさまを救い主と信じれば永遠のいのちをいただくことができます。これは愛の神さまが私たちに与えてくださったプレゼントなのです。

もうあなたは神の御子のイエスさまを自分の救い主と信じていますか？ もしまだなら今日イエスさまを信じましょう。また、あなたがすでにイエスさまを信じているクリスチャンなら、この

すばらしい神さまの愛（イエスさまの救い）をお友だちに知らせてあげましょう。

◆お祈り

「神さま、あなたがイエスさまを私の救いのために与えてくださるほどに愛してくださっていることを感謝します。どうぞ私をあなたの愛にお答えできる者にしてください。」

（支援教師 入川達夫）



8月8日

テーマ：いのちへの水^{みず}

聖書箇所：ヨハネの福音書^{ふくいんしょ} 4章14節^{しょう せつ}

◆今日のみことば

しかし、わたしが^{あた}与^{みず}える水^のを飲^{もの}む者はだれでも、決^{けつ}して渴^{かわ}くことはありません。わたしが^{あた}与^{みず}える水^は、その人^{ひと}のうちで泉^{いずみ}となり、永遠^{えいえん}のいのちへの水^{みず}がわき出^でます。

ヨハネの福音書^{ふくいんしょ} 4章14節^{しょう せつ}

◆メッセージ



みなさんにとって、お水^{みず}が飲^のみたくなる時^{とき}はどんな時^{とき}ですか。太陽^{たいよう}がガラガラしている

時^{とき}に元^{げん}気^きいっぱい体^{からだ}を動^{うご}かしたあとは、コップに注^{そそ}がれた冷^{つめ}たい水^{みず}がとてもお

いしいものです。「ああ、生^いき返^{かえ}った！」と言^いってしまうほど、私たち^{にんげん}を「ほっ」

とさせてくれます。人間^{にんげん}のからだは、70%が水^{みず}ですから、水^{みず}なしでは生^いきて

いくことができません。だから、いつでも水^{みず}が湧^わき

出^でている泉^{いずみ}があれば、安^{あん}心^{しん}ですね。

イエスさまは、「水^{みず}を与^{あた}える」とおっしゃいました。この

水^{みず}は、のどの渴^{かわ}きをいやす水^{みず}ではなくて、心^{こころ}の渴^{かわ}きをいやす

水^{みず}です。心^{こころ}が渴^{かわ}くとは、愛^{あい}がないさみしい心^{こころ}のことです。

誰^{だれ}といっても安^{あん}心^{しん}できない心^{こころ}。何^{なん}のために生^いきているの

かわからない心^{こころ}のことです。そのようにカラカラに乾^{かわ}いた

心^{こころ}が、イエスさまが与^{あた}えてくれる愛^{うらお}で潤^{うる}されるのです。時^{とき}

々、ちょっとだけ、ではありません。いつも、そして、ずっと、泉^{いずみ}のように湧^わき出^でてくる

のです。心^{こころ}が渴^{かわ}くことはありません。イエスさまの愛^{あい}に満^みたされ、安^{あん}心^{しん}して生^いきるこ

ができます。



この水^{みず}、ほしいですか？探^{さが}しに行^いかなくても大丈夫です。どこにあるのか、

はっきりしていますね。イエスさまのもとにあるのです。イエスさまのところ

に行^いって、イエスさまから受^うけることができます。

だから、他^{ほか}の人^{ひと}にも、教^{おし}えたいですね。イエスさまのもとに、心^{こころ}の渴^{かわ}きをい

やすいのちの水^{みず}がありますよ、と。



◆お祈り

「天^{てん}のお父^{とう}さま。わたしたちが、いつでもいのちの水^{みず}である、神^{かみ}さまのことばを聴^きいて留^{とど}

まれるようにしてください。イエスさまのもとで安^{あん}心^{しん}して生^いきるこ

イエスさまのお名^な前^{まえ}によってお祈^{いの}りします。」（白百合福音教会牧師 鈴木徹司）

8月9日

テーマ：イエスさまに従う

聖書箇所：ルカの福音書 5章1節～11節

◆今日のみことば

彼らは、舟を陸に着けると、何もかも捨てて、イエスに従った。

ルカの福音書 5章11節

◆メッセージ

自分の思い通りには、うまくいかないことがありますか？
一生懸命がんばっているのに、良い結果が出ないことがありますか？その日のペテロさんがそうでした。

漁師のペテロさんは、一晩中舟に乗ってがんばりましたが、一匹の魚もとれず、がっかりしていました。そんな時、イエス

さまは、このペテロさんのところに来てくださいました。イエスさまは、私たちのところに来てくださるお方です。イエスさまはペテロさんに「深いところに漕ぎ出して、網をおろして魚をとりなさい。」と言われました。ペテロさんは「私たちは一晩中働きましたが、何一つとれませんでした。」と言いました。ペテロさんは魚を取ることをお仕事にしている漁師です。そのペテロさんが一生懸命にがんばったのに、だめだったのです。でもペテロさんは、イエスさまのおことばに従って網をおろしてみました。すると驚いたことに、網が破れそうになるほどたくさんの魚がとれたのです。

イエスさまのことばには力があります。自分にはできないと思える時でも、イエスさまのことばに信頼して従うなら、素晴らしいみわざ（奇跡）が起こります。これを見たペテロさんはとても驚き、そしてイエスさまの足もとにひれ伏して礼拝しました。イエスさまはそのペテロさんに「こわがらなくてもいいですよ。これからあなたは人間をとるようになるのです。」と言われました。漁師は漁師でも、人間をとる漁師です。魚は網でとると死んでしまいましたが、人間をとる漁師はその人を生かすためにします。それは、イエス

さまを紹介し、イエスさまの救いを伝えることです。ペテロさんは、何もかも捨ててイエスさまに従いました。捨てるとは、イエスさまを第一にすることです。

イエスさまは、私たちのところに来てくださるお方です。そのイエスさまを信頼しておことばに従いましょう。そこに素晴らしいみわざが起きます。そして、イエスさまはペテロさんにそうしてくださったように、私たちを神さまの働き人として招いてくださるお方です。私たちの人生の目的を明らかにし、導いてくださるお方です。

◆お祈り

「神さま。うまくいかないとき、落ち込むときがあります。でも大好きなイエスさまに信頼して、みことばに従うことができますように。」（タイ宣教師 河野晃）



8月10日

テーマ：中風の人の癒し

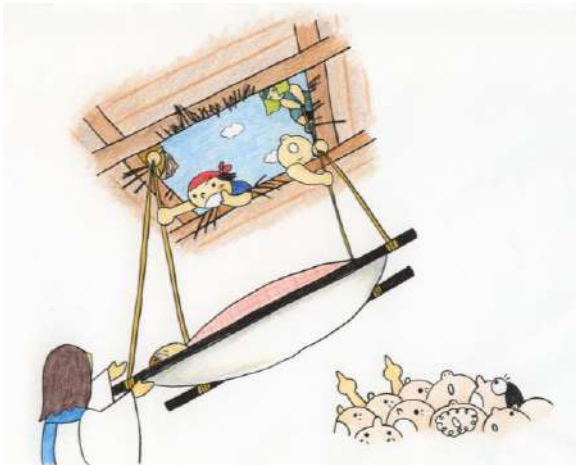
聖書箇所：マルコの福音書 2章1節～12節

◆今日のみことば

イエスは彼らの信仰を見て中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました」と言われた。
マルコの福音書 2章5節

◆メッセージ

イエスさまは神さまのはたらきを始めました。お話しをしたり、病気の人をなおしたりされました。イエスさまのいかれる場所には、たくさんの人々がおしかけてくるようになりました。カペナウムという町に2度目にこられたときには、おおくの人が集まり、玄関にまで、入りきれない人であふれました。そこへ、ひとりの中風の人をはこばれてきました。みなさんは中風という病気をしていますか？頭のなかの血管の病気で、からだのうごきが不自由になる病気です。昔はとてもむずかしい病気で、そのままにしておくと、だんだん動けなくなる大変な病気でした。自分で歩いてくることができないので、4人のお友だちがかついで、イエスさまにいやしていただくためにつれてきてくれました。イエスさまなら、治してくださる！と信じて。



でも、すでにお家は人でいっぱい、中に入ることができませんでした。たいせつなお友だちをなおしていただきたくて、4人のお友だちはなんとかしたいと考えました。そこで少し大変なことがありますが、屋上に上がって屋根をはがして、下におられるイエスさまのまえにそのお友だちを布団ごとつり降ろしてしまいました。下にいた人やイエスさまはびっくりしたことでしょうね。でも、神のみ子のイエスさまは、中風の人と友だちの信仰を知っておられました。そして、あわれみ深いイエスさまは、「あなたの罪は赦されました」と宣言されました。イエスさまは病気の体をなおすだけでなく、罪を赦す権威を持っていることをそこにいた人々にしめすために、そのようにお話しになったのです。

そののち、「起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい」といわれました。中風の人はそのおことばで、すぐに床をたたんで、家を出ていきました。イエスさまは、中風の人と友だちの願いに、答えてくださいました。

イエスさまは、私たちの信仰をご覧になっています。私たちの信仰を知っていて、祈りに答えてくださいます。

◆お祈り

「わたしのお友だちの〇〇さんの病気を治してください。またイエスさまが、わたしの罪も赦してください、ありがとうございます。」（横浜白山道教会伝道師 松下景子）

8月11日

テーマ：ベテスダの池で

聖書箇所：ヨハネの福音書 5章1節～14節

◆今日のみことば

イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。「よくなりたいか。」
ヨハネの福音書 5章6節

◆メッセージ

イエスさまは、38年間病気で苦しんでいる人に、「よくなりたいか」とお聞きになりました。そんなこと、聞かなくてもわかりそうなこと！治りたいに決まっていますね。でも、男の人は「よくなりたいです。」ではなくて、「池の中に私を入れてくれる人がいません。」と答えました。まるで自分の病気が治らないのを、他の人のせいに行っているようですね。ベテスダの池には、水が動くときに、一番最初に池に入った人が治るという言い伝えがありました。だから、ベテスダの池の周りにはたくさんの病人が待ち構えていて、争って池の中に飛び込みました。38年も寝たきりの人は、池に入るために、誰かに入れてもらわなければなりません。でも、よく考えて、池に入ることが一番の願い？治ることが一番の願いではないの？



この男の人の心の中にある本当の願いを知っているイエスさまは、命じました。「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」ずいぶん細かい命令です。「え～、起きることなんて、一人では無理無理。」それとも、「治りたいから、イエスさまのおっしゃるとおりにしてみよう。」と思ったのでしょうか。どっち？



すると、男の人は自分で立つことを選びました。命じられたとおりに立ち上がりました。立つことができたので、彼は更に御言葉に従って、床を取り上げました。歩き出しました。あ、治っています。小さなことから、従っていくうちに、神さまのみわざを体験することができました。

自分でいろいろ考えて、「あれしてください。」「こうしてください。」と言うお祈りをしていませんか。本当に願っていることを、素直に祈りましょう。イエスさまに「私は何をすべきなのですか？」と聞く事が大切です。そして、イエスさまの言われることに従いましょう。小さなことから、一つ一つです。

◆お祈り

「かみさま、今日私は何をすべきでしょうか？ 変わらないと思っている自分自身の罪を赦し従わせてください。」
(三島めぐみチャーチ牧師 下山田耕一)

8月12日

テーマ：心の貧しい者は幸いです

聖書箇所：マタイの福音書 5章3節

◆今日のみことば

心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだから。

マタイの福音書 5章3節

◆メッセージ

「チケット」を買わないと、入れないところがあります。映画館、テーマパーク、動物園、どこもお金を払って入場券を買って入ります。電車やバスも、お金を払って乗りますね。お金があれば、楽しい映画を見たり、ドッキドキのアトラクションを体験したり、かわいい動物を見ることができます。お金を払うと、乗り物に乗って出掛けることができます。

では、天国はどうでしょう。神さまのおられる天国に行けるチケットは、どこで買えるでしょう。残念ながら、天国行きのチケットは売っていません。

では、立派なことをしたり偉い人になれば、天国に行けるのでしょうか。「神さま、私は自慢できるものをこんなに持っています」と言う人は、天国に入れるのでしょうか。イエスさまは、天の御国は貧しい人のものです、と教えてくださいました。何も持っていない人が天国に入れてもらえるというのです。私たちは、たくさん持っている人、何でもできる人なら天国に入れるのではないかな、と思います。でも、そうではないのです。どうしてでしょう。

私たちの心の中には罪があるので、神さまに喜んでいただくことができません。良いことができないばかりか、私たちは神さまを悲しませています。



だから、どんなに努力して偉くなっても、たくさん良いことをしても、天国に入れません。心が罪で汚れているからです。実は私たちは、神さまの天国にふさわしいものは何も持っていないのです。天国に入るためのものを何も持っていないのです。

でも、私たちが天国に入れるように、イエスさまが来てくださいました。イエスさまは、良いものを何も持っていない貧しい私たちを愛して、十字架で私たちの罪をすべてきよめてくださいました。

ですから、何か良いことをして天国に行こうとする人ではなくて、ただイエスさまだけを信じる人が、天国に入れていただける人です。それが、「心の貧しい人」です。その人こそ、ほんとうの「幸いな人」なのです。

◆お祈り

「わたしには良いものはなにもないけれど、イエスさまがわたしの罪を赦して、天国に連れて行ってくださること、ありがとうございます。」(多磨教会牧師 間島直之)



8月13日

テーマ：悲しむ者は幸いです

聖書箇所：マタイの福音書 5章4節

◆今日のみことば

悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるから。

マタイの福音書 5章4節

◆メッセージ

悲しんでいる人を見て、幸せそうに見えますか？普通は、かわいそうに思います。「悲しい」というのは、心が切り裂かれて、痛んでいることを言います。心が痛くて、涙がいっぱい。だれだってそんな思いはしたくないし、悲しい気持ちがあればできるだけ早く悲しみがなくなって、明るく楽しい気持ちになりたいと思います。

でも、イエスさまは言うのです。「悲しむ者は幸いです」と。不思議ですね。どうして「悲しむ人」が、幸いなのでしょうか？それは、何でも悲しんでいれば幸せになれるということではありません。自分の「罪」を悲しむ人が幸いなのです。自分には罪があることを正直に認めて、罪があることは苦しいこと、罪を持ったままでは幸せにはなれないことを知るのです。そして、「罪なんかなければ良いのに！」と、自分の罪に心からがっかりすることです。



そうやって罪を悲しんでいる人を、神さまが慰めてくれます。「慰めてくれる」ということは、神さまが私たちのすぐそばにいてくれて、私たちに必要な助けをくださるということです。聖書は、次のように約束しています。「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(Iヨハネ1:9)。

神さまは、罪を嫌って悲しむ人の味方になってくれます。神さまを信じ受けいれて、神さまが、味方になってくれる幸せを味わいましょう。

◆お祈り

「私の中には罪があります。その罪を捨てます。神さまが、私の罪を赦し、私の味方になってお守りください。」 (和泉福音教会牧師 青木義紀)

8月14日

テーマ：「^{にゅうわ もの さいわ}柔和な者は幸いです」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ しょう せつ}5章5節

◆今日のみことば

^{にゅうわ もの さいわ}柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐから。

マタイの福音書^{ふくいんしょ しょう せつ}5章5節

◆メッセージ

^{にゅうわ}柔和って、あまり聞かない言葉^{ことば}ですね。聖書^{せいしょ}でこの言葉^{ことば}が使われる時は、自分のことを威張^{いば}ったりしないで神さまの言葉^{ことば}に従^{したが}い、人に優しくしてあげられる人^{ひと}のことを表^{あらわ}しています。

聖書^{せいしょ}に出てくる人^{ひと}の中^{なか}では、モーセさんが柔和^{にゅうわ}な人^{ひと}として紹介^{しょうかい}されています。エジプトを脱出^{だつしゅつ}したイスラエルの民^{たみ}を導^{みちび}いていたモーセさんですが、何度も人々^{なんど}から文句^{ひとびと}を言われ、嫌^{もんく}な思^いいをさせられました。でも、モーセさんは神さまにすべてをゆだねている人^{ひと}です。自分^{じぶん}で仕返し^{しかえ}をしません。だから、柔和^{にゅうわ}です。モーセさんはいつもへりくだって、神さまに逆^{さか}らう人々^{ひとびと}のために「彼ら^{かれ}をお赦^{ゆる}してください」と、神さまにとりなし^{いの}を祈^{いの}りをささげるほどでした。



聖書^{せいしょ}の中^{なか}にはそんなモーセさんより、もっと柔和^{にゅうわ}な方が紹介^{しょうかい}されています。それが、私たちの救^{すく}い主^{ぬし}イエスさまです。イエスさまは何^{なん}の罪^{つみ}も犯^{おか}したことがなかったのに、人々^{ひとびと}からバカ^{ばか}にされ、ムチ打^{うち}たれて、十字架^{じゅうじか}に付けられ、その命^{いのち}を投げ出^なしていただきました。それは、イエスさまを信^{しん}じるすべての人^{ひと}がその罪^{つみ}をゆるされて、神^{かみ}の子どもとされるためでした。イエスさまは自分^{じぶん}を十字架^{じゅうじか}に付けた人々^{ひとびと}のために、「父^{ちち}よ。彼ら^{かれ}をお赦^{ゆる}してください。彼ら^{かれ}は自分^{じぶん}で何^{なに}をしている

のかわからないのです」と、彼ら^{かれ}の罪^{つみ}の赦^{ゆる}しのために祈^{いの}ってくださいました。このイエスさまの姿^{すがた}こそ、本当^{ほんとう}の「柔和^{にゅうわ}な者^{もの}」の姿^{すがた}です。イエスさまも神さまにすべてをゆだねておられました。

あなたは、友だちと自分を比べて威張^{いば}ったり、人^{ひと}のことをバカ^{ばか}にしたりしていませんか。イエスさまを信^{しん}じる私たちは、そのような自己中心^{じこちゅうしん}と高慢^{こうまん}の罪^{つみ}から離^{はな}れて、いつも神さまの言葉^{ことば}にしたがい、誰^{だれ}にでも優しくしてあげられる人^{ひと}になりたいですね。神さまがすべてをしてくださる、ということがわかると、神さまの前^{まえ}にへりくだってすべてをゆだね、柔和^{にゅうわ}になることができます。そうするなら、神さまは「その人^{ひと}は地^ちを受け継^つぐ」と約束^{やくそく}してくださっています。イエスさまを見習^{みなら}い、モーセさんのようにへりくだって、「神さま、私^{わたし}に柔和^{にゅうわ}な心^{こころ}を与^{あた}え、人^{ひと}に優しくしてあげられる人^{ひと}になれますように」と祈^{いの}りつつ、神さまの言葉^{ことば}に従^{したが}って歩^{あゆ}みましょう。



◆お祈り

「神さま。私^{わたし}に柔和^{にゅうわ}な心^{こころ}を与^{あた}えて、神さまの言葉^{ことば}に従^{したが}う者^{もの}としてください。人^{ひと}に対して威張^{いば}らず、優しくしてあげられる心^{こころ}を与^{あた}えてください。」 (五日市書教会牧師 中尾信一)

8月15日

テーマ：「義に飢え渴いている者は幸いです」

聖書箇所：マタイの福音書5章6節

◆今日のみことば

義に飢え渴く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。マタイの福音書5章6節

◆メッセージ

夏の暑いときに、たくさん歩いたり、走ったり、運動したりすると、のどがとても渴きます。そういうときに飲む冷たい水は、最高です。水がお腹の中を上から下に、ずーっととおって行くのがよくわかります。私たちのからだの中から「水をくれ」「水をくれ」という声が出ているからです。同じ水なのに、普段何でもないときに飲むときよりも、何倍もおいしいのです。ごはんでも一緒です。ハイキングに行ったり、山登りをしたりしたときのことを思い出してください。お腹がすいているのを我慢して、一生懸命に登った後に食べるお弁当は、家で食べるごはんより、何倍もおいしいでしょう。このときも私たちのからだから「食べ物がほしい」「ごはんをください」という声が出ているのです。



さて、私たちの心からはどんな声が出ているのでしょうか。「神さまとなかよくしたい」「神さまのことをもっと知りたい」という声が出ているなら、それは素晴らしいことです。

私たちは、困っている人を助けたい、正しいことをしたいとおもっていても、なかなかできません。ときどき、まったく反対のことをしてしまうこともあります。友だちに意地悪をしてしまったり、うそをついてしまったりすることもあるでしょう。ですから、神さまに、何が正しいことなのか教えていただかなくてはなりません。また、良いことをするための力もいただかなくてはなりません。心の中に、「私は正しいことをすることができません。神さま、どうぞ助けてください。」という声のある人のことを「義に飢え渴くもの」と言います。「私にはできない」とあきらめてしまわないで、「神さま、私を義に飢え渴く者にしてください」とお祈りしましょう。のどが渴いた時のように。そうして、神さまの祝福に満ち足りる者としていただきましょう。



◆お祈り

「神さまの喜ばれることをすることができるよう、助けてください。」

(国立キリスト教会牧師 嵐時雄)

8月16日

テーマ：「^{あわ}憐れみ^{ふか}深い者は^{もの}幸^{さいわ}いです」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ}5章^{しょう}7節^{せつ}

◆今日のみことば

^{あわ}憐れみ^{ふか}深い者は^{もの}幸^{さいわ}いです。その人^{ひと}たちはあわれみ^うを受けるから。マタイの福音書^{ふくいんしょ}5章^{しょう}7節^{せつ}

◆メッセージ

あなたは「あわれみ」って聞いたことがありますか？「あわれみ」は、神^{かみ}さまがあなたのことを大好き^{だいす}ですよ、愛^{あい}していますよ、ということ^{こと}を伝える^{つた}言葉^{ことば}の一つです。

ある日、私の家の木にあった小鳥の巣からヒナが下に落ちていました。苦し^{くる}そう^{よわ}で弱^{よわ}っていて、このままでは死^しんでしまうと心配^{しんぱい}しました。ヒナのお母^{かあ}さんは近くでさかんに鳴^ないています。かわい^{なん}そう^{たす}で、何とかして助^{たす}けてあげたい、すく^{すく}ってあげたいと私^{わたし}は祈^{いの}って、落^おちたヒナをそつと巣^すに返^{かえ}してあげました。こんな気持ち^{きもち}が「あわれみ」です。

イエスさまは、私たち人間^{にんげん}が罪^{つみ}で苦し^{くる}んでいるのをかわい^{おも}そうに思^{おも}い、あわれんで、十字架^{じゅうじか}にかかって私^{わたし}たちの罪^{つみ}の身代わり^{みがわり}に死^しんでくださいました。イエスさまは、病^{びょうき}気^{ひと}の人^{ひと}たち、仲間^{なかま}はずれにされていた人^{ひと}たち、罪^{つみ}の中で苦し^{くる}んでいた人^{ひと}たちを助^{たす}けてくださいました。これが「あわれみ」です。

イエスさまは、私たちに「あわれみ」をくださいました。そして、私たちにその「あわれみ」をひとりじめしないで、ほかの人^{ひと}にも分^わけてあげなさいとおっしゃっています。神^{かみ}さまの「あわれみ」を受^うけた人^{ひと}は、ほかの人^{ひと}に「あわれみ」を与^{あた}えます。そして、「あわれみ」を与^{あた}えた人^{ひと}は、ほかの人^{ひと}からも神^{かみ}さまからも「あわれみ」をいただけるのです。

じゃあ、実^{じつ}際^{さい}にどんなことが「あわれみ」なのでしょう？たとえば、①人^{ひと}の必要^{ひつよう}に応^{こた}えること、困^{こま}っている人^{ひと}がいたら助^{たす}けてあげること。②ほかの人^{ひと}を赦^{ゆる}すこと、だれかがあなたに対していやなことをしても赦^{ゆる}してあげること。③苦し^{くる}んでいる人^{ひと}を思^{おも}いやること、日本^{にほん}や世界^{せかい}の貧^{まず}しい人^{ひと}、苦し^{くる}んでいる人^{ひと}のために祈^{いの}ったり、さげたりすること。こういったことは、どれもイエスさまが喜^{よろこ}んでくださることです。

その反対^{はんたい}に、ほかの人^{ひと}を「クズ」とか「カス」、「いらない」「使^{つか}えない」と思^{おも}ったりすることは、神^{かみ}さまが悲^{かな}しまれることです。知らんふりをしてしまうことも、そうです。神^{かみ}さまはどんな人^{ひと}でも愛^{あい}してくださって、大切^{たいせつ}に思^{おも}ってくださいます。だから神^{かみ}さまがあなたにくださった「あわれみ」を忘^{わす}れないで、みんなに分^わけ与^{あた}える人^{ひと}になりましょう！

◆お祈り

「神^{かみ}さまがくださった『あわれみ』をありがとうございます。この『あわれみ』を、ほかの人^{ひと}にも与^{あた}えられるように助^{たす}けてください。」

(戸坂聖書教会牧師 松原洋満)



8月17日

テーマ：「心のきよい者は幸いです」

聖書箇所：マタイの福音書5章8節

◆今日のみことば

心のきよい者は幸いです。その人は神を見るから。マタイの福音書5章8節

◆メッセージ

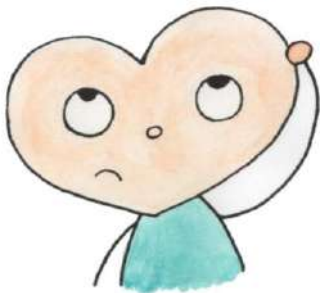
神社には、これからお参りをしようとする人が身をきよめるために、入り口近くに手水（ちょうず）で手を洗ったり口をすすいだりする場所があります。イスラム教でも、手やからだを水で洗ってけがれをきよめます。どの宗教を信じる人々も、神さまに会うには、自分をきよくしなければいけない、という思いがあるようです。

イエスさまの時代の多くの人々も、神さまに近づくために身をきよめようと、水で手やからだを一生懸命洗っていました。確かにからだの外側は、水で洗えばきれいになります。でも、イエスさまは、まことの神さまにお会いするには、外側よりも「心のきよさ」が大事だとおっしゃるので、では、どうしたら私たちは「心のきよい者」になれるのでしょうか。そもそも私たちは罪人な



のに、心のきよい者になれるのでしょうか。ひよっとすると「完全にきれいな心になるなんて、僕／私にはムリ」とあきらめてしまうかもしれませんね。

けれどもイエスさまがおっしゃった「きよい」というのは、「まじりけがない」という意味です。うそや間違ったものが混じっていない、ということです。ですから、心のきよい者というのは、自分の心をまっすぐに見つめて、罪があったなら、隠そうとして嘘をつくのではなく、正直に神さまに申し上げることができる人のことです。もしかしたら私たちは、神さまに自分の罪をお話ししたら、もう赦してもらえないんじゃないか、と思うかも知れません。でも、まことの神さまは、正直な人を喜んでくださいます。そして、イエスさまの十字架によって、どんな罪もゆるしてくださる方なのです。心のきよい、正直に神さまの前に出られる人は、罪や過ちをゆるさない偽物の神さまではなく、私たちを愛してくださる、恵み深いまことの神さまを見ることができ、つまり神さまにお会いできる幸せな人なのです。



◆お祈り

「外側を気にするよりも、心の中の罪も隠さず、神さまに正直にうちあけることができますように。」
(楢形キリスト教会牧師 茅場玲)

8月18日

テーマ：「^{へいわ}平和をつくる^{もの}者は^{さいわ}幸いです」

聖書箇所：^{ふくいんしょ}マタイの福音書^{しょう}5章^{せつ}9節

◆今日のみことば

^{へいわ}平和をつくる^{もの}者は^{さいわ}幸いです。その人^{ひと}たちは神^{かみ}の子ども^ことよばれるから。

^{ふくいんしょ}マタイの福音書^{しょう}5章^{せつ}9節

◆メッセージ

^{みな}皆さんは「^{へいわ}平和」って何だ^{なん}と思いますか？^{おも}沖縄^{おきなわ}の小学^{しょうがく}1年生^{ねんせい}が書き、絵本^{えほん}にもなった「^{へいわ}わってすてきだね」という詩^しの一部分^{いちぶぶん}を紹介^{しょうかい}しましょう。

「^{へいわ}わってなにかな。／^{ぼく}は、^{かん}がえたよ。／^{おとも}だちとなかよし。／^{かぞく}が、^{げん}き。／^えがおであそぶ。／・・・^{おなか}がいっぱい。／^{けん}かしてもすぐなかなおり。／・・・^{みんな}のここから、^{へいわ}がうまれるんだね。」「^{せんそう}はおそろしい。／・・・^{ぼく}だんがおちてくるこわいおと。／^{おなか}がすいて、くるしむこども。／^{かぞく}がしんでしまってなくひとたち。」「あ、^{ぼく}は、^{へいわ}なときにうまれてよかったよ。／この^{へいわ}がずっとつづいてほしい。／・・・^{へいわ}わってすてきだね。／これからも、ずっと^{へいわ}がつづくように／^{ぼく}も、^{ぼく}のできることからがんばるよ。」

^{にほん}日本は、もう70年以上^{ねん いじょうせんそう}戦争^{せんそう}をしていませんから、^{へいわ}平和と言^いえるかもしれません。しかし、戦争^{せんそう}がなくても、自由^{じゆう}に話^{はな}したり自由^{じゆう}に行動^{こうどう}することができなかつたり、ごはんが食^たべられなかつたり、ふるさとに帰^{かえ}れなかつたり、さべつされたりする人がいれば、^{へいわ}平和だと言^いうことはできません。どうして、そういうことが起^おこるのでしょうか？それは、人間^{にんげん}の心^{こころ}が主^{しゅ}（神^{かみ}さま）からはなれ、悪いことをするように傾^{かたむ}いているからです。それを罪^{つみ}と言^いいます。ところがイエスさまは、私^{わたし}たちをその罪^{つみ}から救^{すく}い出^だしてくださるため人間^{にんげん}としてお生まれになり、私^{わたし}たちの身代わりとなつて十字架^{じゅうじか}にかかり、私^{わたし}たちの罪^{つみ}の罰^{ばつ}を受けて死^しんでくださったのです。さらに、イエスさまは三日後^{みっかご}により



がえり、罪^{つみ}の結果^{けつが}である死^しにも勝^{しょうり}利^りされました。そのイエスさまを信^{しん}じる人^{ひと}は、だれでも罪^{つみ}がゆるされ、新^{あた}しい永^{えい}遠^{えん}のいのちをいただけます。そのいのちに生^いきる時^{とき}、主^{しゅ}との平和^{へいわ}な関係^{かんけい}にもど戻^{もど}していただけるのです。そこで、私^{わたし}たちは主^{しゅ}を喜^{よろこ}び、主^{しゅ}が喜^{よろこ}ばれる行^{おこな}いをしようとしします。自分^{じぶん}が困^{こま}っていないからそれでいい、と自分^{じぶん}のことだけになっていませんか。あなた^{あなた}の周^{まわ}りにさべつを受けたり、不自由^{ふじゆう}な中^{なか}で困^{こま}ってに人^{ひと}に心^{こころ}を向^むけているのでしょうか。イエスさまに似^にた人^{ひと}に変^かえられていき、^{へいわ}平和を作^{つく}る神^{かみ}の子^ことよんでいただきましょう。

◆^{いの}お祈^{いの}り

「^{てん}天^{とう}のお父^{ちち}さま。イエスさまを信^{しん}じて、あなたと平和^{へいわ}な関係^{かんけい}になり、この世^せ界^{かい}に平和^{へいわ}を作^{つく}り出^だす者^{もの}としてください。イエスさまのお名^な前^{まえ}によってお祈^{いの}りします。アーメン。」

（横浜上野町教会牧師 柴田智悦）

8月19日

テーマ：「義のために迫害されている者は幸いです」

聖書箇所：マタイの福音書5章10節～12節

◆今日のみことば

義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。

マタイの福音書5章10節

◆メッセージ

「義のために迫害されている者は幸いです」え～、どうして迫害されるのが幸いだろうか、と疑問を持つ人が多いでしょう。それは、迫害されることは周りから嫌われることであり、仲間はずれにされる辛いことだからです。もし自分の身の回りに迫害が起こるならば、迫害してくる人の考えに合わせるか、その迫害する人から遠ざかるのが賢い判断のように思いませんか。つらい思いは避けたいからです。でも、何のためにつらい思いをするかということがポイントです。

主イエスさまが言われた「義」というのは、続く11節の説明からもわかるように、「主イエスさま」のことを指しています。つまり主イエスさまを信じるゆえに受ける迫害のことを教えているのです。新約聖書の歴史を見ると、ステパノさんをはじめ、多くのキリスト者が主イエスさまを信じるゆえに、迫害を受けてきました。財産を奪われたり、むちで打たれたり、故郷から追い出されたり、拳句の果てにはいのちまで奪われることも少なくありませんでした（使徒8：1、第2コリント11：23-28）。



なぜ主イエスさまのために、このような厳しい迫害を受けることが幸いになるのでしょうか。それは、迫害を受けることによって私たちの主イエスさまに対する信仰が試され、さらに迫害を耐え忍ぶうちに、忍耐力が生じるからです。信仰者たちはこの忍耐力によって成長し、何一つ欠けたところのない完全な者となるわけです。つまりキリストに倣い、キリストのようになるのです（ヤコブ1：2-4）。

私たちがキリストのようになるとは、ことばでは言い表せないほど幸いなことです。それは「キリストのように生きる」と理解しても良いでしょう。その人は天の御国で味わう恵みを、この現実（地上）で味わうことになるでしょう。それゆえ、多くの預言者と主イエスさまの弟子たちは迫害を恐れず、むしろ喜んで受け入れ、歩んだのです。私たちも「義のために迫害される」ことを喜んで受け入れたいですね。

◆お祈り

「神の聖霊よ。迫害の道であっても義なる主イエスさまと共に耐えられる復活の信仰で満たしてください。」

（招待キリスト教会牧師 趙 南洙）

8月20日

テーマ：「^ち地の^{しお}塩、^よ世の^{ひかり}光」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ}5章^{しょう}16節^{せつ}

◆今日のみことば

このように、あなたがたの^{ひかり}光を人々の^{まへ}前で^{かがや}輝かせ、人々があなたがたの^よ良い^{おこな}行いを見て、^{てん}天におられるあなたがたの^{ちち}父をあがめるようにしなさい。マタイの福音書^{ふくいんしょ}5章^{しょう}16節^{せつ}

◆メッセージ

イエスさまは、^{わたし}私たちのことをこの世界にある「^{しお}お塩」、^{ひかり}「^い光」と言われました。

^{しお}お塩は人間が生きていくためには、なくてはならないものです。ゆでたまごの^{しろ}白味に^{しお}お塩をつけないで^た食べると、^{あじ}味がわからず、もの^{たり}足りなさを^{かん}感じます。^{しお}お塩が^{しお}塩から^ななくなったら、もう^{しお}お塩とはいえません。

イエスさまを^{しん}信じて^{すく}救われている人は、お友だちがほかの人の^{もの}もち物を^{ぬす}盗んだり、ほかの人を^{いじめ}いたりしていたら、そのお友だちの^{なかま}仲間になってはいけません。それだけではなく、あなたは、^{しお}お塩のように^{しおあじ}塩味がきいた^{あゆみ}あゆみをしているのでしょうか。お友だちが^{わる}悪いことをしていても、それに^{なが}流されないで^{ただ}正しいことをすることができるのでしょうか。あなただけが^{ただ}正しいことをするのはとても^{ゆうき}勇気があることです。お友だちから^{わる}悪く^{おも}思われたり、^{いじめ}められたりしないだろうかとしんばい心配になります。でも^{ゆうき}勇気を^だしぼり出して、^{ただ}正しい^{みち}道をえらびましょう。^{かみ}神さまは^{ゆうき}勇気も^{ちから}力も^{あた}与えてくださいます。そうすれば、あなたは^{へいあん}平安と^{よろこ}喜びに^{かみ}みたまされるにちがいありません。神さまが^{よろこぶ}ことをしたので、^{かみ}神さまはあなたを^{ほめて}くださいます。



^{ひかり}光も、人間が生きていくためにはなくてはならないものです。^{ひかり}光がなければ^{くら}暗やみで、^み見ることはできません。^{くら}暗やみをこのみ、^{つみ}かくれて^{おか}罪を犯すのではなく、世界の^{せかい}光として^{かがや}かがやきましょう。あなたが^{かみ}神さまに^{よろこ}喜ばれることをすすんでするなら、^{かみ}神さまは^{よろこんで}くださいます。お友だちに^{やさしく}してあげましょう。^{いたす}いじめられていたら、^{たす}助けてあげましょう。ひとり^{なかよ}ぼっちでいたら、^{なかよ}仲良くしましょう。

あなたが^{かみ}神さまに^{よろこ}喜ばれることをしているとき、あなたの^{おこな}行いを見て^みいる人々が、「^{てん}天におられるあなたがたのおとうさんは^{すばらしい}素晴らしい」といって、^{かみ}神さまを^{ほめた}たたえるようにしたいものですね。

◆^{いの}お祈り

「お友だちが^{わる}悪いことをしていても、^{ただ}正しいことができるように、^{ちから}力をお与えください。」

(横浜白山道教会牧師 松下信)



8月21日

テーマ：「御名があがめられますように」

聖書箇所：マタイの福音書6章9節

◆今日のみことば

だから、こう祈りなさい。「天にいます私たちの父よ。御名があがめられますように。」

マタイの福音書6章9節

◆メッセージ

今日は、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」の中に書かれているひとつの言葉を考えてみましょう。まず、「御名があがめられますように」です。

「御名」とは「神さまのお名前」ということで、これは「名は体を表す」のことわざの通り、「神さまご自身」ということです。

神さまご自身が「あがめられる」。これは正確には「神さまが聖なるものとされますように」ということです。イエスさまがこのように祈りなさいと仰せられたのは、私たちが生きているこの世は、神さまご自身が神ではないものとゴッチャにされ、神さまの聖さが汚されているという現実があるからです。私たちは、何物よりも先に、神さまを第一となければならないのに、実際はそうしていないのです。だから神さまが神さまご自身にふさわしく、どんな時にも真っ先に、そして最高の地位が与えられますように、という祈りです。

考えて見ると、私たちは何事においても、自分の事をまず第一に考えています。祈りにおいても子どもが受験することになったならば、何を置いても子どもに力を貸してくださいと祈るし、病気になるば癒していただきたいと祈るのです。まるで神さまが自分の僕であるかのように、自分の願いに奉仕してくださることを神さまに期待するのです。

そればかりか、時には神さまが自分の願い通りに動いてくれないと腹を立て、神さまに文句をつけるのです。この「御名があがめられるように」という祈りは、それとは逆です。



神さまは世界と私たちの創造主です。私たちはこの神さまによって生かされている被造物でしかありません。そうなら、何を置いても神さまが神さまとしてあがめられ、尊ばれていくように。私たち人間は自分が被造物であるという、自分の立場を十分にわきまえ、それにふさわしい場所に自分を置くということが何よりも大切です。

ある方が、「もし主イエスさまが主の祈りを教えてくださらなかったら、あるいはもし私たちが『祈りはこうしなさい』と祈りの模範を定めてくださらなかったら、絶対に『御名があがめられるように』なんて祈りは、思い浮かばなかったことでしょう」と言っておられました。まさにその通りです。「御名があがめられますように」、神さまだけを第一としますという思いをもって、祈りましょう。

◆お祈り

「天の父なる神さま。『御名があがめられますように』ではない、自分があがめられるように考え、祈っている、私の罪をお許してください。御名によって祈ります。アーメン。」

(白百合福音教会牧師 河村廸男)

8月22日

テーマ：「御国が来ますように」

聖書箇所：マタイの福音書6章10節

◆今日のみことば

御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。

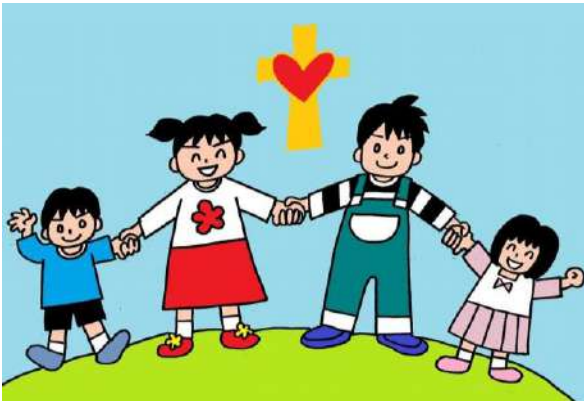
マタイの福音書6章10節

◆メッセージ

今日は、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」の中に書かれているひとつの言葉を考えてみましょう。それは、「御国（神さまの国）が来ますように」というお祈りの言葉です。

私たちは、日本という国に住んでいますが、今日のお祈りの言葉は、日本という国だけではなく、世界に神さまの国が来ますようにというお祈りなのです。それは、神さまがすべての支配者でありますように、ということです。世界も、わたしたちの心も。

この主の祈りをする人は、神さまの子どもです。でも、神さまの子どもであるわたしたちを、神さまからはなれさせようとするのが悪魔です。悪魔は神さまの国が来ないように悪いことばかりを考え、悪いことをさせようとしています。神さまのことをわすれていると、悪魔の考えているこ



とをしてしまうようになります。そうすると神さまの国には来ないし、行くこともできません。それが罪と言います。悪魔がよろこぶ罪をおかしながら、今日の主の祈りを言おうとしたら、とても変です。「御国が来ますように。」とお祈りをしている人は、悪魔がさそってくる罪からはなれるようにします。神さまのことをいつも思いましよう。神さまの喜ばれる言葉を言うようにします。そして、神さまの喜ばれることをおこなうので

す。「御国が来ますように」と、「主の祈り」を口で言っているだけでは、お祈りしていないことと同じなのです。おうちの人といるときも、お友達といるときも、もちろん一人でいるときも「御国が来ますように」と、お祈りしている神さまの子どもにふさわしい人でいつもいましよう。みんながイエスさまが教えてくださったお祈りをし、神さまの子どもとして生きているなら、神の国は来ています。今日も、神さまのみこころを行います、という思いをもって、祈りましよう。



◆お祈り

「今日から、悪魔の言うままにならないで、しんけんに、イエスさまが教えてくださった御国が来ますようにと、祈る人にさせてください。」

（青葉キリスト教会牧師 漆間一英）

8月23日

テーマ：「日ごとの糧をお与えください」

聖書箇所：マタイの福音書6章11節

◆今日のみことば

わたしたちの日ごとの糧をきょうもお与えください。

マタイの福音書6章11節

◆メッセージ

今日も、イエスさまが教えてくださった「主の祈り」の中に書かれているひとつの言葉を考えてみましょう。

毎日のお祈り、もしかしたら、「わたしのお願い」のお祈りが一番多くなっているのではないのでしょうか？

「お与えください。」と祈る私たちの祈りは、まず、何を求める事が必要なのでしょう？求める祈りの基本として教えてくださっている御言葉が今日の御言葉です。

「糧」という言葉は普段あまり使う事はありませんね。

「毎日の必要」と考えると思い浮かべやすいでしょう。

まず、私たちが生きるために必要なのは、食べる事、飲む事。しっかり食べ、十分な水分を取って私たちの

身体は元気になり、よく学び、よく遊ぶ事ができます。一週間に一度だけたっぷり食べたら、ずっと元気に過ごせて何でもできるというわけではありません。睡眠も必要です。安心して休める場所、住まいも着る物も必要です。普段整えられているひとつひとつの必要は、毎日健康で元気に過ごせるために大切な事です。それらは、神さまがわたしたちに与えてくださっているものです。だから、神さまに願います。

そして、私たちの心にも、毎日、毎日エネルギーとなる糧が必要です。心と身体はつながっていて、身体の元気と心の元気のバランスはとても大切です。何か悩み事や辛い事があると食欲がなくなったり、眠れなくなったりする事もあります。

私たちの心の内に働き、毎日心に浮かぶいろいろな気持ちを一番良いように導いてくださるのも神さまです。今日も神さまの御言葉によって力を頂きましょう。

今日も明日も、その日、その時、必要の全てを満たしてくださる神さまの助けとたくさんの恵みを信じ、感謝しつつ歩み出しましょう。

そして、これらの「毎日の必要」が満たされていない人たちの事を覚えましょう。この祈りは、「私たち」のお祈りなのですから！

◆お祈り

「神さま、私たちの毎日の必要を備えてくださる神さまの恵みを感謝して過ごせる今日となりますように。」

(衣笠中央キリスト教会伝道師 三浦知恵)



8月24日

テーマ：「^お負^{ゆる}いめをお赦^{ゆる}してください」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ}6章^{しょう}12節^{せつ}

◆今日のみことば

わたし たちの^お負^{ゆる}いめをお赦^{ゆる}してください。わたし たちも、わたし たちに負^おいめのある人^{ひと}たちを赦^{ゆる}しました。
マタイの福音書^{ふくいんしょ}6章^{しょう}12節^{せつ}

◆メッセージ

お友だちとけんかをした時はお互いに嫌な思いになりますよね。けれども「ごめんなさい」と言
って仲直りをしたなら、また楽しく一緒に遊べるようになります。もし「ごめんなさい」と言わな
いままだったら、嫌な気持ちを持ったままだし、楽しく遊ぶことも出来なくなってしまいます。

神さまと私たちの関係もこれととても似ています。私たちが神さまに罪を犯したのに「ごめん
なさい」と言わないままにいるなら、それは良い関係とはいえません。

イエスさまは私たちにどのように祈ったら良いのかを教え
てくれました。それが「主の祈り」です。今日のみことば
は、その主の祈りの一部分です。イエスさまは「私たちの負
いめをお赦してください」とお祈りしていくようにと言われたので
す。負いめとは神さまが悲しまれる思いや言葉や行いのこと
です。聖書では罪と言っています。友だちを悲しませたり、自
分勝手になったりすることは神さまを悲しませているのです。

少し心を静めて「今、わたしの中にある負いめは何か?」
とを考えてみましょう。神さまを悲しませているものがあるなら、勇気を出して神さまにお祈りし
ていきましょう。このお祈りは、神さまと良い関係でいられるために絶対に必要なのです。

神さまはあなたのお祈りを無視したり、聞き忘れてたりすることは絶対にありません。必ず聞い
てくださいます。そしてあなたの負いめを赦してください。

イエスさまは神さまとの良い関係を持つと同時に、あなたに嫌なことをしてくる人や嫌なことを
言ってくる人を赦すことを祈るように言われました。これは出来ないと思う人もいるかもしれませ
ん。確かに簡単なことではないですよね。けれどもイエスさまは出来ないことをしなさいとは言
いません。私たちは赦すことが出来るから祈りなさいと言われていたのです。なぜなら私たちは自
分の罪を全部赦してもらっているからです。私たちは赦されていることをいつも忘れないであり
がとうの思いを持ち続けていくとき、人を赦すことが出来るのです。

◆お祈り

かっこの中は自分の負いめを入れて祈りましょう。

「私は（ ）をしてしまいました（思っていました）。どうか赦してください。
私も、私に（ ）した（ ）をゆるしました。」

（青葉キリスト教会牧師 漆間英幸）



8月25日

テーマ：「^{こころ}^あ試みに会わせないでください」

聖書箇所：マタイの福音書6章13節

◆今日のみことば

わたしを^{こころ}試みに^あ会わせないで、^{あく}悪から^{すく}お救いください。国と^{くに}力と^{ちから}栄えは、^{さか}とこしえに
あなたのものだからです。アーメン。
マタイの福音書6章13節

◆メッセージ

主イエスさまが弟子たちに教えた、主の祈りの終わりの部分です。私たちが生きていくとき、さまざまな^{こころ}試みがあります。試練があります。神さまは、愛する者に^{しれん}試練を与えます。ここでは、^{あく}悪より^{すく}お救いくださいと祈っていることから、この^{こころ}試みということばには、^{ゆうわく}誘惑という意味があることがわかります。

神さまは、^{あく}悪に^{ゆうわく}誘惑されることのない方です。また誰も^{かた}誘惑なさるお方ではありません。しかし、^{わたし}私たちが^す住んでいる世の中には、^よ様々な^な誘惑があります。人はそれぞれ自分の^{よく}欲に^{ひかれ}ひかれ、^よおびき寄せられて、^{ゆうわく}誘惑されるのです。あなたは、^{かみ}神さまが^{よろこ}喜ばないことをしていませんか。お金や^{かね}占いなど、^{うらな}神さま以外のものに^{たよ}頼っていませんか。

また、お友だちから、日曜日どこかへ^{にちようび}遊びに行かない？と^{あそ}誘われたことはありませんか。そのとき、あなたは^{こた}どう答えますか。私は^{わたし}行かない、とはっきりと^{ことわ}断ることができます。それだけでなく、私は^{わたし}日曜日には^{にちようび}教会へ行くので^{きょうかい}一緒に^いいかない？とお^{さそ}誘いすることもできるでしょう。



イエスさまは^{ゆうわく}誘惑について、^{じゅうじか}十字架にかかる^{まえ}前の晩、^{ばん}ゲッセマネの園で、^{その}弟子たちに^{つぎ}次のように教えられました。「^{ゆうわく}誘惑に^{おちい}陥らないように、^め目をさまして、^{こころ}祈っていなさい。心は燃えていても、^{にくたい}肉体は^{よわ}弱いのです。」(マタイ 26:41)。では、弟子たちは^{めいれい}イエスさまの命令を守ることができましたか。弟子たちは皆、^{でし}眠って

^{いの}しまい、^{いの}祈ることができなかったのです。私たちも、いつも^{ゆうわく}誘惑に^か勝てるほど強い者ではありません。ですから^{ゆうわく}誘惑そのものに^{あわ}あわないように、と^{かみ}神さまに^{いの}祈ることです。神さまが^{わたし}私たちを^{ゆうわく}誘惑から^{まも}守ってくださるのです。

◆お祈り

「主よ。^{しゅ}誘惑をしりぞけ、^{つみ}罪を犯さないように^{おか}お守りください。」



(追浜聖書教会牧師 石川新)

8月26日

テーマ：「^{そら}空の^{とり}鳥、^の野の^{はな}花を見なさい」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ}6章^{しょう}33節^{せつ}

◆今日のみことば

だから、神の^{かみ}国と^{くに}その^ぎ義とをまず^{だいいち}第一に^{もと}求めなさい。そうすれば、それに^{くわ}加えて、これら
のものはすべて^{あた}与えられます。マタイの福音書^{ふくいんしょ}6章^{しょう}33節^{せつ}

◆メッセージ

みなさんは、何の^{なん}動物が^{どうぶつ}好きですか。みなさんのお家^{うち}に、もしかしたら犬や猫^{いぬ ねこ}がいるかもしれませんね。動物たち^{どうぶつ}を見ていると、とってもかわいいですね。餌^{えさ}を食べ、お昼寝^{ひるね}して、お散歩^{さんぽ}も行けて動物たち^{どうぶつ}は^{しあわ}幸せ^{あひ}そうです。飼い主^{かぬし}に愛^{あい}されて、守^{まも}られているからです。

私^{わたし}たちは、神さまが^{かみ}お造り^{つく}になった素晴らしい^{すば}世界^{せかい}に生きています。この世界^{せかい}には、人間^{にんげん}だけではなく、神さまが^{かみ}お造り^{つく}くださったいろいろな動物^{どうぶつ}、植物^{しょくぶつ}が満ち満ちています。すべての物^{もの}は、神さまが^{そうぞう}創造^{すば}された素晴らしいものです。

空^{そら}を見上げると、そこには鳥^{とり}が気持ちよさそうに飛^とんでいます。鳥^{とり}は、何を食^たべようかと心配^{しんぱい}は



しません。神さまが食^{かみ}べ物^{もの}すべてを用意^{ようい}してくださいます。将来^{しょうらい}のことも鳥^{とり}たちは心配^{しんぱい}しません。心配^{しんぱい}する^{ひつよう}必要^{ひつよう}がないからです。

野原^のやお庭^{はら}のお花^{はな}も神さまがきれいに咲^さかせてくださいます。植物^{しょくぶつ}は、何を着^なようかと心配^{しんぱい}しません。神さまが^{かみ}必要^{ひつよう}なものをくださるからです。

私^{わたし}たちは、神さまのこ^こどもです。神さまは、鳥^{とり}よりもお花^{はな}よりも私^{わたし}たちを愛^{あい}しておられます。そして私^{わたし}

たちに必要^{ひつよう}なものは全て^{すべ}与^{あた}えてくださいます。素晴らしい神さまの愛^{あい}に私^{わたし}たちは守^{まも}られています。ですから、私^{わたし}たちは、神さまを一番^{いちばん}に考^{かんが}えましょう。神さまを一番^{いちばん}にするって、どういうことか、家族^{かぞく}で話^{はな}し合^あってみましょう。

造^{つく}り主^{ぬし}である神さまの愛^{かみ}をうけて、神さまを愛^{あい}する人^{ひと}に、神さまは素晴らしい^{すば}祝福^{しゅくふく}を用意^{ようい}してくださいます。



◆お祈り

「私^{わたし}たちをいつも愛^{あい}して、食^たべるもの着^きるものすべてをくださることを感謝^{かんしゃ}します。」

(横須賀中央教会牧師 荒井隆則)

8月27日

テーマ：「目から梁を取りのけなさい」

聖書箇所：マタイの福音書7章5節

◆今日のみことば

偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はっきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。マタイの福音書7章5節

◆メッセージ

家族の中でも、学校の中でも、大人も子どもも、ときどきけんかをします。そんなとき、一方的に「あいつのせいで、おれはこんな目にあった！」と自分の中で怒りをためていることはありませんか。私たちは自己中心なので、気に入らないことは他人のせいにしてしまいます。

でも、ここで立ち止まって考えてみましょう。私たちはその人よりも偉いのでしょうか。私たちはその人の主人なのでしょうか。そうではありません。私たちが気に入らない人も、全ての人を造られたのは神さまです。どちらが正しいか、正しくないかを決めるのも神さまです。神さまは私たちの傷ついた心をよく見てくださり、「わたしにその心を預けなさい。」と言われます。「あなたの思いはよくわかった。でもあなたのほうには落ち度が全く無かったと言い切れるかな？わたしにはあなたも大事、彼も大事なのだ。だから二人とも仲直りして、わたしと一緒に歩みましょう。」と言われるのです。

神さまの言葉を聞いて、私たちが「わかりました。神さまごめんなさい。」と告白すると、今まで怒りに満ちていた心がスッと晴れて、私たちの心の中に神さまの愛があふれてきます。「相手が謝ったら、ゆるそう」という気持ちはなくなり、私の心にも落ち度がたくさんあるのだと分かり、その人に謝りたいという思いが与えられます。「御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、柔和、自制です。」（ガラテヤ5:22～23）という御言葉のとおり、変えられていきます。

聖霊さまは私たちの心の内側をきよめ、けんかした人のことも愛せるように心を変えてくださいます。今日も家族や学校や仕事などそれぞれの場において、イエスさまの赦しを味わっていきましょう。

◆お祈り

「イエスさま。すぐに人をさばこうとする罪深い私を、赦してくださりありがとうございます。今日も造り主なる神さまを見上げて、私の周りの人を愛することができますように。」

（愛宕山教会牧師 武安宏樹）



8月28日

テーマ：「^{てん}の^{ちち}父は^よ良いものを^くくださる」

聖書箇所：マタイの福音書^{ふくいんしょ}7章^{しょう}7節^{せつ}～11節^{せつ}

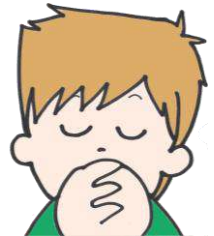
◆今日のみことば

してみると、あなたがたは、^{わる}悪い者ではあっても、^{じぶん}自分の子どもには^よ良い^{もの}物^{あた}を与えることを知っているのです。とすれば、なおのこと、^{てん}天におられるあなたがたの父が、どうして、^{もと}求める者たちに^よ良いものを^{くだ}下さらないことがありましょう。

マタイの福音書^{ふくいんしょ}7章^{しょう}11節^{せつ}

◆メッセージ

「^{もと}求めなさい、^{さが}探しなさい、^{たたき}たたきなさい」と、^{わたし}私たちの^{てん}天の父なる^{かみ}神さまに^{もと}求めることをイエスさまはすすめておられます。この^{いの}祈りは、^{つづ}続けてくり返しされる^{いの}祈りでもあります。^{わたし}私たちは^{おほ}多くの^{ばあい}場合、お父さんやお母さんにお^{ねが}願いしますが、イエスさまは、^{てん}天の父なる^{かみ}神さまに^{もと}求めなさい、^{ねが}お願いしなさいと^{おし}教えておられます。そして^{てん}天の父なる^{かみ}神さまは^{いの}祈って^{もと}求める人^{ひと}に^{こた}答えてくださると^{やくそく}約束しておられます。「^{こた}答えられるかどうかわからないけれど、^{いの}祈ってみよう」というのではなく、^{やくそく}約束して^{くだ}下さった^{かみ}神さまを^{しん}信じて^{いの}祈りましょう。



「^{じぶん}自分の子に^{パン}パンのかわりに^{いし}石、^{さかな}魚のかわりに^{へび}蛇を^{あた}与える^{おや}親などいない」とイエスさまは言われました。^{てん}天の父なる^{かみ}神さまは、^{わたし}私たちの^{いの}祈りに^{こた}答えて、^{よく}良くないものや^{きけん}危険なもの、^に似ているようで^{じつ}実は^{ちが}違うものなどを^{くだ}くださることは^{けつ}決してありません。^{いの}祈っても^{こた}答えられないことがあるとすれば、^{かみ}神さまはそれがあなたにとって^よ良いものではないと^{かんが}考えておられるのかもしれません。あるいは^{いの}お祈りを^{つづ}続けることが^{ひつよう}必要なのかもしれません。



「^よ良いもの」とは「^{ちようど}丁度^よ良いもの、^{たす}助けになるもの、^{やく}役に^{たつ}たつもの」などの^い意味があります。^{かみ}神さまは「^よ良い^{かた}方」ですので、^{かみ}神さまの^{せいしつ}ご性質に^{ふさわ}ふさわしい^よ良いものを^{くだ}下さいます。そして、^{いの}祈って^{もと}求めていく^{うち}内に、^{かみ}神さまが^{わたし}私に^{くだ}下さるものを「^{わたし}私にとって^よ良いもの」であると^{うけい}受け入れることができる^{こころ}心^{あた}を与えてくださいます。あなたは^{いま}今、^{なに}何を^{もと}求めていますか、^{ねが}願っていますか。^{かみ}神さまに^{きよう}今日、^{いの}祈っていきましょう。

◆お祈り

「^{てん}天の父なる^{かみ}神さまが^{わたし}私の^{いの}祈りに^{こた}答えてくださることをありがとうございます。そして^{わたし}私にとって『^{ちようど}丁度^よ良いもの、^{たす}助けになるもの、^{やく}役に^{たつ}たつもの』を^{くだ}くださることをありがとうございます。」

(めぐみ教会牧師 田口倫子)

8月29日

テーマ：「^{せま もん はい}狭い門から入りなさい」

聖書箇所：^{ふくいんしよ}マタイの福音書 ^{しやう}7 章 ^{せつ}13 節

◆今日のみことば

^{せま もん はい}狭い門から入りなさい。^{ほろ いた もん おおきく}滅びに至る門は大きく、^{みち ひろ}その道は広いからです。そして、そこか
^{はい い もの おお}ら入って行く者が多いのです。^{ふくいんしよ}マタイの福音書 ^{しやう}7 章 ^{せつ}13 節

◆メッセージ

^{みな}皆さんは^{せま もん}狭い門と道、あるいは、^{ひろ もん}広い門と道、どちらが好きでしょうか？
^{ひろ もん}広い門と道なら入るのも、^{みち はい}歩くのも^{ある}楽ですね。逆に、^{ぎやく}狭い門、^{せま もん}狭い道だった
^{はい}ら入るにも、^{ある}歩くにも^{こま}困ってしまいますね。

でも、^{もんだい}問題は、その^{みち}道、その^{もん}門の^い行きつく^{さき}先がどこか、ということです。

聖書は「^{せまい}狭い門から入りなさい。^{ほろ いた もん おお}滅びに至る門は大きく、^{みち ひろ}その道は広いから
です。」また、「^{いた もん ちい}いのちに至る門は小さく、^{みち せま}その道は狭い」と言います。狭い門と狭い道のゴール
は、^{てんごく}天国です。^{ひろ もん ひろ}広い門と^{みち}広い道のゴールは、^{ほろ}滅びです。どちらがいいですか？もちろん、^{せま もん}狭い門を
^{はい}入っていききたいですね。

なぜ^{てんごく}天国の入り口は狭いのでしょうか。^{てんごく}天国には、^{しん}イエスさまを信じれば入れるはず、^{かんたん}簡単でし
ょう？そう、確かに、^{たし}口先だけで「^{くちさき}主よ。主よ。」と言うことは^{かんたん}簡単です。でも、^{かみ}神さまは、ことば

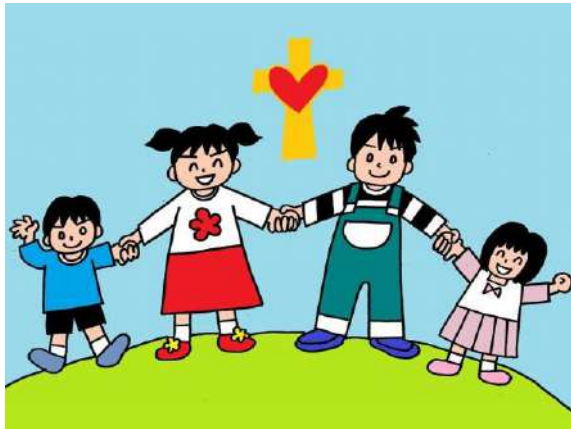
だけでなく、^{おこな}行いをご覧になっています。「主よ」とことば
で言っているように、^い生きること。^{しゅ}主である^{かみ}神さまのみこ
ころを聞き、そのみこころを^{おこな}行うこと。まず^{かみ}神さまに聞
かなければ、みこころはわかりません。それから、^{おこな}行う
ことです。

^{かみ}神さまのみこころを^{おこな}行なうことは^{かんたん}簡単ではありません。
しかし、^{かみ}神さまは^{わたし}私たちに^{かみ}神さまのみこころを^{おこな}行な
う^{ちから}力もくださいます。^{かみ}神さまから^{ちから}力をいただき、^{かみ}神さま

のみこころを^{おこな}行ないましょう。^{かみ}神さまは^{わたし}私たちに^{すば}素晴らしい^{てんごく}天国を^{ようい}用意しておられます。^{すば}素晴らしい^{てんごく}天国に^め目を^む向けて、^{かてい}家庭において、^{がっこう}学校において^{かみ}神さまのみこころを^{おこな}行ないましょう。お友
だちに、^{あい}愛の^{おこな}行ないをしてゆきましょう。

◆お祈り

「^{かみ}神さま、^{わたし}私たちを^{あい}愛し、^{てんごく}天国へ^{みちび}導いてくださることを感謝します。^{かんしや}神さまのみこころを^い行な
える^{ちから}力をください。」



(国外宣教師 林武志)

8月30日

テーマ：「岩の上の家」

聖書箇所：マタイの福音書7章24節～27節

◆今日のみことば

だから、わたしのこれらのことばを聞いてそれを行^{おこな}う者はみな、岩の上に自分の家を建て^たてた賢^{かしこ}い人^{ひと}に比べることができます。
マタイの福音書7章24節

◆メッセージ

家を建てるところを見たことがありますか。家を建てる時には、まず、土台が大切です。砂を掘るのと、岩を掘るのと、どちらが楽だと思いますか。もちろん、砂！砂場で、いろいろ作って遊んだことがありますね。でも、砂で作ったものは、雨が降ると形が崩れてしまいます。砂で作った土台も同じです。簡単に土台になりますが、洪水になると形が崩れて、せっかく建てた家も壊れてしまいます。

イエスさまを信じている人は、①賢い人、②岩の上に自分の家を建てた人、とされています。ルカの福音書の同じお話が出ている6章48節には、③地面を深く掘り下げて、岩の上に土台を据えた人、と出ています。イエスさまを信じると、①賢く知恵のある人になれるのです。みことばを聞いて、みことばを行^{おこな}う人のことです。聞くだけでなく、みことばのとおり生活すること。みことばは私^{わたし}たちを賢くします。知恵のある人にします。あわてないで落ち着いた人にします。正しい判断ができる人にします。すてきですね。②岩とは、イエスさまのことです。世界で一番しっかりした岩。大きな大きな岩。それがイエスさまです。ですからイエスさまを信じている人は、イエスさまという世界一のしっかりとした岩の上に立っているのです。安心ですね。③地面を深く掘っていくと誰でも必ず岩に届くことができます。ちょっとだけで怠けないで、地面を掘っていくと岩に届きます。誰でもどんな人でも。



岩であるイエスさまはここまでおいでと、私^{わたし}たちを支えるように、私^{わたし}たちの下で待っていてくださいます。うれしいですね。

イエスさまを信じて、イエスさまを土台としている人は、雨が降っても、風が吹いても、嵐が来ても倒れません。悲しいことがあっても、さびしいことがあっても、つらいことがあっても、絶対に倒れません。イエスさまこそ、どんなことがあってもゆるがない世界一の岩である、まことの神さまだからです。

◆お祈り

「イエスさま、事故があっても、事件があっても、病気になっても負けないで、あなたが支えていてくださいますから、ありがとうございます。」

(長野めぐみ教会牧師 平島誠)

8月31日

テーマ：「百人隊長の信仰」

聖書箇所：マタイの福音書8章5節～13節

◆今日のみことば

それから、イエスは百人隊長に言われた。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」すると、ちょうどその時、そのしもべはいやされた。

マタイの福音書8章13節

◆メッセージ

ガリラヤ湖に近いカペナウムという町に、兵士たちから好かれていた、百人の兵士をまとめる隊長がいました。自分の子どものようにかわいがっていた少年の兵士が、中風という病気にかかってとても苦しんで今にも死にそうでした。さあ大変です。もしも、家族や友達が病気になったら、なんとかしてあげたいと思いますね。イエスさまは、いつもわたしたちのことを心配してくださっています。

この百人隊長は外国人でしたが、ユダヤ人の信じるまことの神さまを信じ、礼拝堂を建てるお手伝いをした人です。その頃、イエスさまがいろいろな病気の人を直されたといううわさを聞いて、知り合いのユダヤ人にイエスさまの所に行ってもらいました。少年兵士の病気の事を伝えると、イエスさまが「行って直してあげよう。」と言われ、その百人隊長の家に向かいました。「わざわざ来ていただくなんて。ただおことばをください。そうすれば、直りますから。」と言いました。そのころユダヤ人は、外国人の家に入らないことになっていたからです。

百人隊長の兵士たちは、「行け」と言えばすぐ行くし、「来い」と言えばすぐ来る、命令に従う人たちです。だからこの百人隊長は、「イエスさまほどの力ある方が直るようにおことばをくだ

さるなら、それだけで必ず直る」と疑いませんでした。イエスさまは、力あるお方！と信じていたということです。イエスさまはそばにいた人々に、百人隊長の信仰をすばらしいとほめられました。イエスさまは百人隊長の信仰深さを見ぬいていたのですね。イエスさまが信じたとおりになるようにと言われた、ちょうどその時に、少年兵士の病気は直りました。

皆さんは病気になってしまった時、どうしますか。そんな時は、この百人隊長のように「病気を治すことのできる力」を持っておられるイエスさまを信じて、祈りましょう。イエスさまはあなたの信仰を喜び、あなたの祈りにこたえてくださいます。

◆お祈り

「どんなに困ったときにも、どこにいても、こころからイエスさまの力を信じ、祈っていけるようにしてください。」

(野沢福音教会牧師 小寺肇)

